

野ばら 7月号

自分らしさを誇れますか

校長 夏見隆晴

人は、何歳くらいから「自分」というものを意識し始めるのでしょうか。私の場合は、幼稚園に通うようになってからはなかったか、と思ひ出されます。これが早いのか遅いのか、それとも人並みなのかは、私には解りません。ただ、同じクラスになった子たちの、それぞれに対して、それなりに異なった感情を抱いていたことが、今思い返せば、「他人とは異なる自分」というものを、意識し始めた最初ではなかったかと、考えます。

一人一人の思いや考えの違いが、その時その時の言葉や行動の違いとなって、己の外に出て来ると、それを受けた相手が、それぞれの自己の内に湧き起こった思いとして、言葉や行動にして、打ち返してきます。しかしその言葉や行動は、己の思いや願いとは、ずいぶん異なったものとして出て来ることがあります。というより、自分の心の思いや願いとは、全く反対の表現となって出て来ることの方が多い、と言ってもよいかもしれません。

私たちの多くは、自分の心を偽った言葉でもって、他者との会話を遣り過ごすということで、他者との間を無難に切り抜けた、と思ひこもうとしております。しかし、このような状況が長く続くと、自分らしさが無くなったり、悪くすれば己の人間性を壊してしまったりする事になるかもしれないのです。日常の事柄から重要事項に至るまで、本当は正直に思うことを、他者に告げることが出来れば、その方が良いに決まっています。

人は、己の言葉を、相手に嫌われないようにと、慎重に選びながら発することが多いのではないのでしょうか。もっと言えば、心の中にあることを、ありのままに出したりすると、相手からどう思われるかと恐れ、心にも無い言葉で話すというのが、多くの人たちがとるやり方でしょう。このことを、私は否定するわけではありません。しかし、本当に言いたいことがあるのに、言わないというのは正しい態度ではないと思っています。

私たちは、自分にとっても相手にとっても、大切で必要な事柄はしっかりと伝えても良いのです。と言うよりも、わたしは伝える必要があるとさえ考えております。正直に自分の思っていることや考えている事を、伝えてくれないという方が、相手にとっても信頼と尊敬の欠如になると思うからです。大切な事をしっかりと伝え合い、自己表現することを、英語にすれば「アサーション」と言い、良好な人間関係を築くために大切な事です。

親や教師が、日々接する子供達の要求することからに対して、そのまま受け入れて良いのか否かを判定するのは、確かに困難なことです。だからと言って、子供達の言いなりになることも、大人として賢明な行為ではありません。また何も聴き入れないというのもダメでしょう。ジックリと耳を傾け、要求している事の内容が、子供達の自己実現のために、是非とも必要か否かを聴き分け判断した上で、「イエス」か「ノー」で答えることです。

黒板が教えてくれる

天久 美穂子

私の母校にも所謂、「名物先生」と呼ばれる先生がいたのですが、その中でも忘れることのできない恩師がいます。中学のときに理科を担当してくださったK先生はとても厳しい授業が有名な先生で、先輩方からも恐れられていました。宿題や課題を忘れると厳しい口調で叱責され、授業中の小さな私語はもちろん、どんなに隠れてやっている内職も見逃さない先生で、全員が常に緊張しながら授業に臨んでいました。また、授業の内容もハイレベルで、教科書に載っていないことも沢山とりあげるので、「K先生のテストは教科書や参考書を勉強しても良い点数が取れない」というのが、私たち生徒の常識になっていました。後で聞いたところによると、大学受験レベルの内容も多く含まれていたようです。

そんなK先生の授業で、問題を指名され黒板に解答を書くというのは恐怖の時間でした。「分かりません」と答えるとお決まりのセリフが返ってきます。

「黒板が教えてくれるからとりあえず前に出なさい」

何のことだろうと思う間もなく、黒板前に立たされチョークを持ち、早く書くよう促されます。どうしよう、席に帰りたいとおろおろしていると、天からの助けとばかりに答えが聞こえてきます。K先生の声です。先生は、私にしか聞こえないくらいの小さい声で、数々のヒントを示してくれていました。その声に助けられて、何とか答えに辿り着くことができ、先生からOKをもらうと、やっと席まで帰してくれます。緊張した雰囲気の中で友人に相談することもできず、たった1人で前に出されることはとてもプレッシャーでしたが、どんなに難しい問題でも、先生が助けてくれたおかげで、解答することができました。先生の力を借りてではありますが、自分自身で難問をクリアすることができた経験は、中学生にとってはとても励みになるものでした。

今でも同級生同士が集まれば、「黒板ではなくて、教えてくれたのは本当は先生だったよね」と、K先生の話に花が咲きます。どんなに難しい問題であっても、恐れず立ち向かっていく姿勢を教わり、あの時の厳しさを経験していたからこそ、より厳しい高校の勉強や大学受験でもくじけることなく乗り越えることが出来たのだろうと思っています。

「黒板が教えてくれる」、K先生の厳しさの中にある優しさを、今も思い出します。



MAKE・A・WISHの街頭募金活動を通し、人の心の痛みを知り、人間として支え合いの精神を養う。また、募金に協力された方々の善意の心に触れることで、当たり前の日々が親や周囲の人々からの恩恵であることを気づかせ、感謝の気持ちを再認識させる。

ホームページ <http://www.mawj.org/>

実施日:2019年7月19日(金) 活動時間:16:00~17:55

場 所:パレットくもじ前広場及び交差点歩道付近



の行事予定

7月2日(火)	高1・高2総合学力/高3総合学力記述
3日(水)	職員会議(16:20 完全下校)
8(月)~11日(木)	第2回定期試験
11日(木)	スクールカウンセラー来校日
12日(金)	答案返却日
13日(土)	オープンスクール、PUP⑤
19日(金)	生徒集会・大清掃 メイク・ア・ウィッシュ街頭募金
21日(日)	夏季休暇(～8/31まで)
22日(月)～31日(水)	中学生勉強会
22日(月)～8/30日(金)	高校生夏期講座



生徒の頑張り



第72回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 南九州地区予選大会

男子 円盤投 第1位 記録 53m57 (大会新記録・沖縄県高校新記録)

高3 藤原 孝史朗

男子 砲丸投 第4位 記録 14m44

高3 藤原 孝史朗

☆体操競技の中田海斗(高3生)君、自転車競技の川又 スティーブン 由雅(高3生)君(開催県枠にて出場)と共に、2種目とも全国大会(令和元年度全国高等学校総合体育大会)への出場が決定しています!



沖縄カトリック高校野球部試合のお知らせ



第101回全国高等学校野球選手権記念沖縄大会 in コザ信金スタジアム(沖縄市)

1回戦 辺士名 - 沖縄カトリック

6月30日(日) 2試合目 11:30予定(3塁側)

☆オープンスクールが開催されます☆

ご近所・お知り合いの方々へのご紹介を宜しく申し上げます



8:30~	受付	中高校舎1階大会議室
9:00~9:30	体験授業 ①	理科 (小1~小3) 3階理科室 英語 (小4~小6) 4階視聴覚室
9:45~10:15	体験授業 ②	理科 (小4~小6) 3階理科室 英語 (小1~小3) 4階視聴覚室
10:30~11:10	説明会	1階大会議室 校長挨拶・学校紹介・入試説明等

*体験授業は小学生対象ですが、どなたでも見学可能です。*各学年の総合学習の様子もご覧下さい。

喫茶コーナー(3階被服室)

時間 9:00 ~ 12:00

*保護者が無料で行っています。どうぞ、ご利用ください。



展示

進路実績・学校行事・
ソーイング部受賞作品(1階)

平和学習(2階掲示板)・
美術科(階段ギャラリー)



学校法人 カトリック沖縄学園

沖縄カトリック 中学・高等学校

◀ ご来校をお待ちしています。▶



〒901-2215 宜野湾市真栄原3丁目16番1号 TEL: 098 (897) 3300

<http://ocjs.catholic-okinawa.ed.jp/index.jsp> E-mail: ocjs@catholic-okinawa.ed.jp